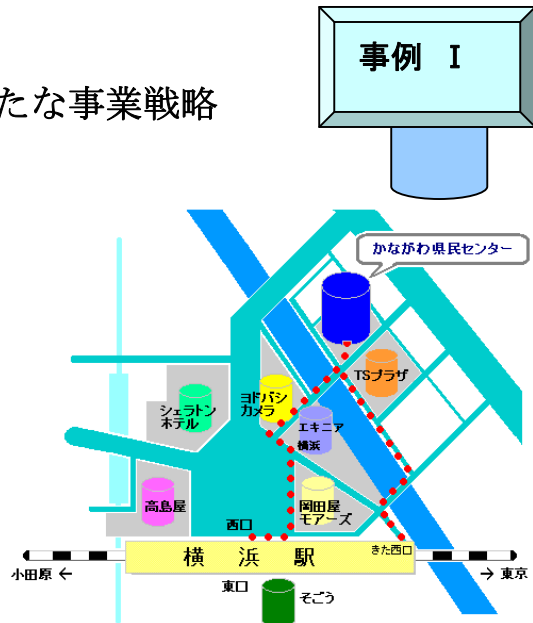


事例 I

常設展示場の新たな事業戦略

私たちの会としては大きな挑戦でした。『常設展示場の新たな事業戦略』としてともしびグッズコーナー(かながわ県民センター1F)の方向転換を行いました。コーナーの毎日の運営(展示・販売)を障害者1名、ボランティア2名で行うこととしました。

障害者の方は神奈川区の地域作業所等の方が交代で参加し、ボランティアは新たに募集していくことになりました。特にボランティアの養成と並行して、「見ず知らずのボランティアに障害のある子を預けるなど聞いたことがない」などという、家族の理解を得るために事業所内の話し合いを経て、様々な準備と共にコーナーの改修を行いました。意識の高い良質のボランティアを得たことによって事故も無く、参加者の伸び伸びした活動は事業所職員をも変化させ、個々の事業所も自ら積極的に事業化を図ってきています。



「横浜駅」西口・きた西口を出て、
徒歩おおよそ5分

1 ともしびグッズコーナーの実践

「見知らぬ同士が出会い、販売活動しながら支えあっています」とボランティアの言葉



ともしびグッズコーナー

〒221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

TEL 045-312-4812

利用者とボランティアの共同作業！

12事業所の障害者：登録数75人、
ボランティア35人(H23,4月現在)

開店：10時

活動時間：利用者9時50分～16時、
ボランティア：9時50分～17時

入替：年3回(県内の事業所製品の

3回での交代制、ただし季節ものは随時受け付けている)

出展事業所数：60～70事業所(毎回) 出品製品数：7,000超(毎回)

活動内容：①コーナーの掃除と陳列整理②銀行への入金と両替え③レジや販売活動など
昼食：12時頃(3人で交代)。

売上状況：昨年度5,872,880円(323日、地震のため10日間休み、10日間の時間短縮)

かながわ県民センター：最多来館者施設

かながわ県民センターは、県民が集結する場として、直接県民サービスをしている相談機能や県民活動の場を提供しています。(例)災害ボランティアの拠点、NPO 推進室など。

このセンターは「**立地条件に恵まれている！！**」。横浜駅近くで一等地といえます。昨年度の来館者は約 150 万人！ 県施設としては最多規模です。

ともしびグッズコーナー（入居団体）は、障害者の手作り製品の展示コーナーとして、一般県民への啓発を目的としています。センターが県民の集結する場、県民が集う場所であることを利用してボランティアと共に障害者自らが作った製品を現在販売していますが、センターとして特別扱いはしていないといえます。



所長は、コーナーを訪れ話しかけていく。これもうれしいひとコマでもある。(自信満々に説明！)

気持ちよく、楽しく活動

当会としてはグッズコーナーを現在まで事故も無く続けられたことは、センターの県職員の方々等の大きな見守りがあった（ある）おかげであり、障害当事者の努力、ボランティアや作業所の努力はもとより、特に障害者の方への見えない配慮は大きかったと思います。障害者を中心にして気持ちよく楽しい活動ができております。ただ、感謝です。

利用者とボランティアさんにインタビュー！

Q:いつ頃から、ともしびグッズコーナーの販売員に来ていますか？

(当事者):最初の頃（平成14年4月）からです。

Q:どんなことがうれしいですか？

(当事者):お客さんから声をかけてもらったり、自分でレジを打てるようになって、自信がつけました。

*お客さんの似顔絵をさっとその場で描いてくれることもあるそうです。

Q:今後の抱負は？

(当事者):これからも元気で続けていきたい。作業所から次の場所へも移りたい。

(ボランティア):最初は、利用者さんとの接し方がわからないことがあったりしましたが、慣れてきて、今ではお互いに支えあいながら取り組んでいます。

:お客さんに喜んでもらえるようなコーナーを心がけ、限られたスペースの中でも工夫して、製品販売ができればいいと思っています。

エピソード

当初はともに初対面の連続、ローテーションなので再び会うまで数ヶ月、障害者の方がほとんど口をきいていただけなく、ボランティアのため息が聞こえてきそうな日もありました。

ボランティアが、ある日混んだデパートで買物中に、若い男性に抱きつかれ？（抱きつかんばかりに駆け寄って来たのが事実）びっくり。いっしょに販売活動をした障害者の方でした。家族の方もびっくり。あわてるやらうれしい説明やら・・・。

あまりの忙しい日はてんでこ舞い、障害者もボランティアもただ、くたくたの日もありました。1日5万円を超えると大変なのです。10万円を超えた時には、次の日から2～3日作業所で当番の障害者の方は、興奮状況であったとか。1個100円の物など細かい単位の製品が多いし、お客さんはある一時に集中します。大変な日は、売り上げも、釣り銭も間違わず終わります。こんな日は、間違いがないのですね。

2 発展していく活動内容

昼食販売：平成14年9月～

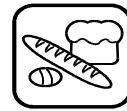
県社会福祉会館にて毎週、火・水・木曜日の昼休み時間に、5事業所が交代でパンやお弁当を販売しています。

ローテーションで行うことで、飽きられないし、事業所行事などで実施日程をやり繰りでき、少々の競争の原理も。

県社会福祉会館：横浜市神奈川区沢渡4-2



県社協のお仕事も色々あるのだ。ゆっくりでしかできない方がボランティアと数日がんばっています。



新商品の開発も重要だ



会館の受付前（一番目立つ場所に陣取り）

委託封入作業

（神奈川県社会福祉協議会からの委託事業）

多量の発送業務が委託されています。事業所が県民センター内の会議室に移動してきたようで、封入作業をせっせと行っています。

この形式の外での仕事もありだ！

まだまだ役所等にも売り込める、職域開発の提案だ！

生徒・学生向けの昼食販売：平成 17 年 9 月から実施

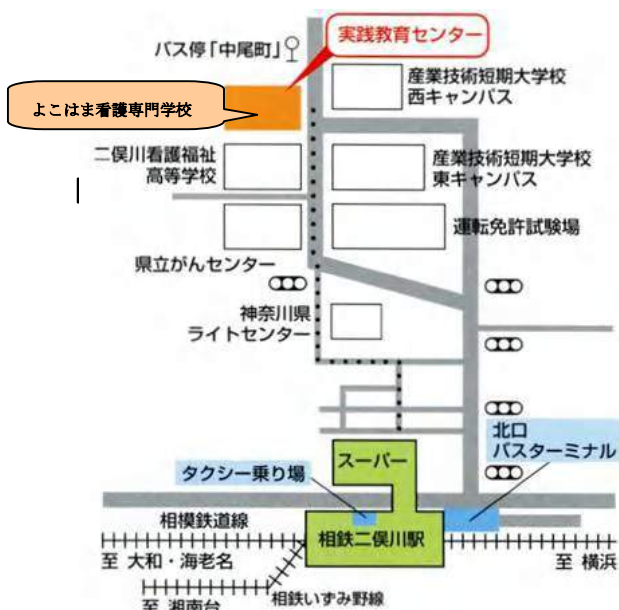


キャピキャピの生徒が押し寄せて、ガヤガヤ

県立よこはま看護専門学校での平日の月～金曜日の昼休み時間に、5 事業所(社福 4、NPO 法人 1) が交代でパンやお弁当、クッキーの販売。時間帯によって、隣接する二俣川看護福祉高等学校や実践教育センターの生徒・教員の人たちが大勢来て大変賑やかです。「おいしいです！」好評で、翌日の予約もしていく方もいます。

水羊羹、プリンなどの手作りお菓子も販売。味噌汁だって販売しています。

よこはま看護専門学校、実践教育センター、二俣川看護福祉高等学校の皆さんの胃袋をつかめが合言葉か！？



学園祭にも参加、販売だ！売りまくるぞ！



追記：事業所の厨房を拝見！！

(夏は暑さとの戦いだという)



街のお弁当屋さんとして注文に追われている。

福祉会館や学校等も販売には、もってこいだ！（全て障害者の参加が原則）

◎障害者が直接販売を行うことにより、意欲が湧き、大きな変化が…。

◎一事業所だけでなく組み合わせによって味の競争や飽きないような工夫もでき、事業所の都合での販売中止もなくなります。システムを組むことにより信用を得ることができます。

◎長期、固定販売により顔見知りもでき、販売のお金計算や電卓に挑むことなど大きなメリットもあり、その変化に職員もビックリです。